愛知工業大学研究報告
第３８号Ａ平成１５年

教養教育の可能性
――もう一つのＦＢの試みより――

Possibilities of General Education
－ From other trial on the feedback of the faculty development －

児嶋　文寿
Fumitoshi KOJIMA

Abstract: General education is recently very difficult problem in university. Every year I hope to my students to write more in free describe space of FB. I want to know my students opinions on my teaching methods and teaching thoughts .But they do not write more everytime. So I tried to know their thoughts by my examination in this school year. The result of this trial I could know their opinions and hopes on my teaching skills and teaching thoughts . And I found some new possibilities of the General education.

１．はじめに

毎度ＦＢ(授業フィードバック)の際、自由記述のところに、具体的に、いろいろと書いてくれるよう要望するのだが、今年度の前期もやはり多くなかった。ただ、前期の記述のなかでも少し、感ずることがあったので、今回（２００２年度・後期)、試験問題の作成に、一工夫して、ＦＢで得られなかった学生の評価を、特に講義の内容と方法について意見を記述させるようにした。ＦＢと違って、自分の名前がわかる、成績に直結する可能性もある。ということで、学生の意見を文字通り受け止めるのは、妥当性に欠けるのかもしれない。ただ、それを勘案しても、それなりに、意図した学生の意見、感想、要望を把握できたと思う。また、ここに、速報的に記した意味は、総合教育科目（従来の専門科目と区別される教養科目をこのように本学では称する。)、特に、人文・社会領域に対する学生の興味や関心や要望・無気力、無関心といわれて久しい彼らの心に食い込んでいく可能性を彼らの言葉で示そうと思ったからである。

衆知のように、すでに、小・中・高校で、始められている「総合的学習」のねらいについて、例えば、「高等学校学習指導要領」は、

「（１）自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

（２）学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。」

と述べている。大学のいわゆる一般教養教育の問題、学生に言わせれば「面白くない」、専門の先生に言わせれば「無駄」、「役に立たない」というような否定的評価は、単に、担当の教員達のせいだけでなく、日本の教育がこの数十年とってきた教育政策とは無縁ではない。総合的学習がねらう教育は、その意味では、今、いろいろな大学教育の課題のひとつである本学でいえば総合科目教育の果たさねばならない方向を示しているといってもいいのではないだろうか。小論のテーマに掲げた「可能性」というのはその意味である。

２．総合教育科目「現代社会の探究」

教職科目以外を担当したことがない私が、この科目を担当し始めたのは、担当の先生が体調の問題から辞任され、歴史的な分野であったため、教育史が

愛知工業大学　基礎教育センター　教職課程

専門ならカバーされたいということだったと思う。

まず、この講義のシラバス、受講者、試験成績と今年度のＦＢの必要な部分を示しておく。

（１）シラバス

「現代社会の探求」

かって、米駐日大使ライシャワー氏は、維新以来の日本の驚くべき急速な発展の原動力の一つとして、明治以来の義務教育制度の整備・確立を高く評価した。だが日本の教育制度は、学歴社会を生み出し、もう一方では、戦争につながる国民の意識形成に大きな影響を与えた。戦後その反省の上に教育基本法が定められ、６・３制の新しい教育制度が出発した。この講義では、以上の歴史をふまえ、情報化・高齢化・少子化の社会を迎えた今、現代日本の社会のあり方を、教育、日本人の形成を軸に探求する。

１．社会と教育の概念　２．社会の発展と教育の役割　３．近代までの社会と教育　４．明治維新と学制　５．国家体制の整備と教育制度の確立　６．日清・日露戦争と学校　７．大正デモクラシーと教育改革運動　８．世界大恐慌と抵抗の教育運動　９．第２次世界大戦とファッシズムの教育　１０．敗戦と第１次米教育使節団　１１．憲法、教育基本法の制定　１２．中教審・臨教審と教育　１３．世界の教育改革競争　１４．情報化、高齢化、少子化社会をむかえて

（２）受講者について（平成１４年・後期）

履修登録者数		１１１人
学年別	４年	９人
	３年	４２人
	２年	３１人
	１年	２９人
試験受験者数		８４人
成績	Ａ	２２人
	Ｂ	３６人
	Ｃ	１６人
	Ｄ	６人
	Ｅ	４人
	Ｚ	２７人

（３）ＦＢの結果について

ＦＤ委員会による公式の集計結果は、本年度より全科目、教員とも学内には、インターネットで公表されたが、ここにも、必要部分の結果を掲げておく（授業フィードバックアンケート結果集計（次頁参照））。　当然（？）、履修者数と受験者数とは、一致しない。　さて、問題としている自由記述欄は、

「２．以下の項目についてあなたの意見を自由に記述欄に書いて下さい。
（１）この授業で特に良かった点
（２）この授業で特に改善して欲しい点
（３）その他、授業についての意見　」

という設定で、Ｂ４用紙の半分近いスペースがとってある。

以下、ここに記述してあったものをそのまま書いておく。なお、一言でも書いた人数は、60 人中 18 人である。従って、3 項目全部に書いたものも、1 項のみについて書いたものもいる。

（１）について
・私語が少ない授業でした。
・先生の雰囲気
（・字が見にくかった。・・・場所違い（筆者））
・雑学たっぷり
・ほのぼのしていて楽しかった。
・興味津々（しんしん）
・雰囲気　　・静か
・興味深い話がたくさん聞けた。
・授業のペースがはやすぎたりしなくてよかった。
・先生の喋り方がとても上手かったので楽しく講義を聞くことができた。
・授業内容に興味をもつことができたのでよかった。
・テキストを買わなくてよかった。

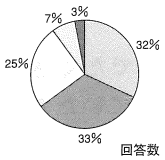
（２）について
・歴史に詳しくなかったのでわからない所がありました。
・歴史の説明を少し足して下さい
・黒板の字を見やすくして欲しい。
・黒板が見にくい
・黒板の字が小さすぎて見にくい。
・説明はわかりやすかったが黒板がしっかりまとまってなく見にくいと思う。
・板書がとても多かったのでノートに書き写すのが大変だった。
・字が小さくてわからない字があった。
もう少し字を大きく書いて欲しい。
・テキストがないので、プリントなどを使用して欲しい

授業フィードバックアンケート集計結果

回答用紙枚数　60枚
（誤記入・未記入は除く）

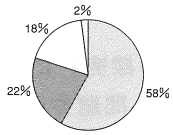
その他の総合教育科目　　教員コード　10650　　科目コード：G2014

1．あなたはこの授業を何回欠席しましたか（注）



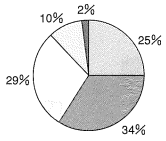
回答数　60

2．あなたはこの授業に何回遅刻しましたか（注）



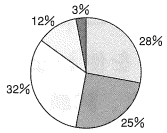
回答数　60

3．あなたはこの授業を熱心に意欲的に受講しましたか



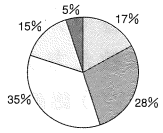
回答数　59

4．教員の声は聞き取りやすかったですか



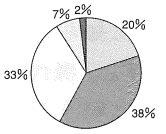
回答数　60

5．教員の板書は見やすかったですか



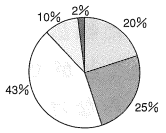
回答数　60

6．教室内は私語が無く勉学に適した雰囲気でしたか



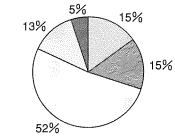
回答数　60

7．授業の進行は明快でわかりやすかったですか



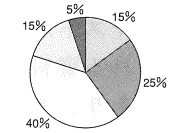
回答数　60

8．この授業のテキストや教材はあなたにとって適当でしたか



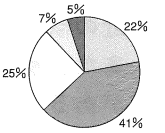
回答数　60

9．教員に気軽に質問できる雰囲気でしたか



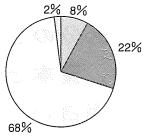
回答数　60

10．教員は熱心にこの授業に取り組んだと思いますか



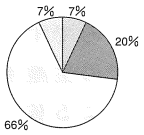
回答数　60

11．この授業内容のレベルはあなたにとって適当でしたか（注）



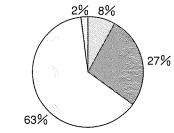
回答数　60

12．この授業の速度はあなたにとって適当でしたか（注）



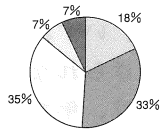
回答数　60

13．この授業内容の量はあなたにとって適当でしたか（注）



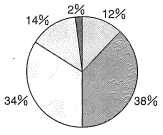
回答数　60

14．この授業の内容には興味が持てましたか



回答数　60

15．総合的に見てあなたはこの授業に満足しましたか



回答数　58

16.

回答数　0

17.

回答数　0

18.

回答数　0

19.

回答数　0

20.

回答数　0

①そう思う　②どちらかといえばそう思う　③どちらとも言えない　④どちらかといえばそう思わない　⑤そう思わない

（注）選択肢のある設問については、設問用紙を参照してください。
※ご自分で、さらに詳細な分析を行いたい方には、データをTEXT形式でお渡ししますので、計算センターまでお申し出ください。（内線1302,E-mail:request@center.aitech.ac.jp）

（3）について
・ほのぼのできた。
・レポートがむつかしかった。（小テスト・・筆者）
・便覧の内容が変更になったことは、前もってつたえるべきだ。教育に興味ないのに、うけざるをえなくなった。

以上であるが、若干のコメントをしておくと、板書の件については、課題ではあるが、テキストを使用しないため、かなり多くの必要事項をノートさせる。

現在の学生の状況では、書いて示す、それを目で見る、自分でノートに書く、ノートで復習する。このような教え方が、テキストを使わない場合、有効であるという認識がある。また、試験の際の勉強は、まず、講義内容の理解が第一であって、安易にインターネットを利用した、十分に理解していない言葉の羅列は、通用しないといってあるからである。

ただ最近の傾向として、テキストがあればなんとかなる、また、授業中配布される資料があればという考え方があることは確かであり、高校までの授業の延長での受講態度、方法が支配的になってきたことも否定できない。積極的に、自分なりのノートを創り、メモしながら講義を理解する・・・これも、総合教育の課題かもしれない。いずれにしろ、板書の工夫と受講人数の制限は避けられないと考える。

講義内容の変更の情報提供は、年度ごとのシラバスの内容（全学年に対する）のなんらかの方法による提示が考えられなければならない。特に、この科目のように、高学年次の受講者が多い場合必須である。

3．もうひとつのＦＢについて

さて、本題に移ろうと思う。先にのべたように、ＦＢの自由記述欄の少なさに対する試験での工夫というのは、我々の学生時代、一般教養科目の先生が、文系の学生に対しては、理系の先生が、できないのを見越してか、よく、「授業の感想を述べなさい。」式の設問を、問題の最後につけておいてくれたのを思い出して頂けるといい。まさに、それをまねて、メインの問題（問１）の後に、問２として、「講義のなかで、もっとも興味をもった内容について、簡単にまとめ、その理由、感想を書きなさい。」との設問を加えておいたのである。

以下はその中から、学生の記述をそのまま引用しながら、総合教育科目の内容や方法についての可能性を考えてみたいと思う。

シラバスの順に、数的にまとまっているものを引用していきたい。本学の学生は、ご承知のように、理系を主としているせいか、パソコンワープロを使い慣れているのか、字が下手、誤字が多いし、作文自体がうまくない。これは、他大学（文系）への非常勤の経験から、断言できる。これも、総合教育科目の課題のひとつである。文章は、そのまま、引用し、意味不明、あきらかな間違いについては、文章が理解できるようてを最低限手を入れた。

（１）シラバス１，２の内容について。

・「現代社会の探究」における講義でたくさんの現代社会における問題や影響を学ばせていただきました。その中で、もっとも興味もったものといえば、流通について興味を持ちました。生産から消費へという物の流れをまなぶことができました。社会や環境、教育といった幅広い面で、自分に知らないことをたくさん知ることができたからです。「現代社会」の中でもっと知らなければいけないということを学ぶことができたことがよかったとおもいます。

・この授業で興味を持てたところは、社会（科学）についてのところです。特に、時代区分のところです。時代時代での生産手段の違いや、資本と土地の所有者の違いによる貧富の差などが面白いと思ったからです。原始共同体社会から現代に近づくにつれて、初めは貧富の差はなく平等であったものが、だんだんと差がひろがっていくのがわかります。

・人間の現代の環境での疎外について
　マスコミによる疎外・・・人間の受動化
　官僚（制）による疎外・・大組織による個人の圧殺
　科学技術による疎外・・機械による人間の支配
こんな短い３行の事ですが心に残ったのでここに書きました。この３つの疎外は先生の講義を聞いて「なるほど、確かに」と思ったのを覚えています、自分の無知さがすこし分かった気がしました。多分、僕の人生で最後の「社会」の講義でした。

・興味を持ったことは「疎外」です。「疎外」とは、自分が自分自身のために作り出したものが、ある時自分に対立してくるというもの。例えば、機械による人間支配の科学技術による疎外、人間の受動化、画一化をうむマスコミによる疎外などがある。人間が便利なものを探求してきた結果、自分たち人間に

知らない間に悪影響を及ぼしていたのだと思うと、恐ろしく感じた。

・疎外・・・Ａが自分自身のためにつくったＡ’がＡに対立すること。この授業の時に、昔アニメであったように人間が自分達がらくになるためにお手伝いロボットなどをつくり、それが知識を持ち人間達を支配する。あれが疎外の例だと聞き、こんな事はありえないと思っていたが今の時代アニメの中だけであったロボットが現実にあらわれだして近い将来本当になるかもしれないと思った。工場は、機械化がすすみ人の手をつかわなくなってきたそれにより仕事を失う人もふえたことも機械による疎外だと思う。楽をするためにつくりあげたロボットにより自分の職を失い生活があやぶまれている。ただ開発するだけでなくのちのちの事もかんがえなければならないと思う。人間は自分達のエゴによって自分達の首をしめているような気がする。

・私が興味を持った講義は「教育の疎外」の本質と現象です。学習教育の内容と目的における疎外、子ども同志の関係における疎外、子ども同志の自主的規則（律）における疎外、子どもの全面的発達における疎外、子どもが真理や真実を見きわめる目（理性）の発達における疎外により、操作しやすい人間（例えば、ファッシズムの方向）になってしまうことです。

最近の子どもは、入試のための席次や、点数などを重視したり、仲間をライバル視したりする子が多いです。これは、こういった疎外のためであり、確かに勉強は大切だけど、このままだと人間的に成長できないと思いました。

先生の講義はとてもわかりやすくおもしろかったです。

（この学生は、教育の疎外の因果関係を逆に理解している・・・筆者）

（２）シラバス３の部分について

・私は教育・学校の起源がもっとも授業の中で興味を持ちました。なぜなら、少子化の現在では考えられない「子殺し・幼児殺し」「間引き」といった行為がかっては行われており、それが「教育」の起源になっていると言うことを学んたからです。
この授業を通し、”教育”とは”学校”とは？について色々な事を学びました。それらは、今まで考えでは思いもよらないものが起源になっており、驚きの連続でした。・・・（中略・・筆者）・・・私たちの周りには授業で学んだ以外にも、まだまだたくさん、私の知らない思いもよらない起源によって現在のような形になっているものがたくさんあるのだろうな。（この学生は、バンジージャンプの起源が入社式（古い時代の成人式）に起源を持つという話を忘れたらしい。「子殺し・幼児殺し」は、産児制限であるが、その意味で教育とつながる・・・筆者）

・エロス論・・・人生においての恋愛の意義
美醜論ー美・・同性愛・・・精神的なもの
醜・・異性愛・・・欲望
男女性論ーもとの姿に戻りたいという欲求・要求

講義において一番興味をもったのはエロス論の美醜論である。なぜならば、今の世の中において、同性愛というのは醜いとはいわないが、ひなんされたりするものであるのに、それが美しいとされているなんておもしろいと思う。又、異性愛に対しては、今の世の中ではあたりまえで、普通のことであるけれどそれが醜いとされているのである。しかし、異性愛が欲望であるというのは、少しわかるような気がする。男女性論においては、もとの姿にもどるというのは、これになると力が強くなったりする。男女がいっしょになるというのは本来ここからきているのではないかと思う。この時のことをやっている時が一番たのしかったです。

・エロスという言葉にとても興味をもち、なぜ同性愛や異性愛がどうして生まれるかを学んだ、とても異性に対して興味があったのでいつも以上に授業を聞き、異性を好きになる理由などがわかった。

とてもたのしい講義だったのでこれからも、このような心に残る講義をしてほしいと思います。

・エロス論ー人生における恋愛の意義

講義を聞いた上で単純に勉強になったと思ったから。　恋愛とかの事が授業という形で聞けるとはおもわなかったから。

・私が講義のなかで興味をもったのは「プラトン」のことです。もともと哲学には興味があったのですが、「プラトニックラブ」が「プラトン」の考え方から来ているなんて知りませんでした。また、「エロス」はもっといやらしい意味だと思っていましたが、そうではないことも知りました。変な誤解が解けてよかったです。この講義で学んだ知識を生かして、機会があったら、哲学などの本を読んでみたい

です。
・プラトンの哲学の恋愛のところについてで、あんな時代でも同性愛や異性愛についていろいろ記してあり、その分け方なんかも非常におもしろく、こんな考え方もあるんだなと 考えさせてくれるようなものだったので興味を持ちました。

（プラトンについては、彼の国家編の教育制度論が現在の各国の義務教育制度の原型といわれており、公教育の機能の説明に必要であり、エロス論は彼の倫理思想を恋愛を例にとって分かりやすく説明したものである。・・・・筆者）

・授業で、大学の起源を学んだときに出てきたのが都市学校とウニヘルシタスであった。義務を伴わない自由な教育で国家権力の介入もなくまさに理想的な学校だと思った。このような教育方針のもとで学んでいた学生はさまざまな思想をもっていただろう。そのような背景で封建制社会への疑問や、教会の権力への抵抗心などが生まれていったのだろう。授業の中で最も印象にのこったのが遍歴学生だった。学生を職業にして暮らしている人々がいたとはとても驚きだ。

・興味をもったのは遍歴学生で遍歴学生とは学生の特権を利用して生活していく人達である。遍歴学生は、身分的にも思想的にも自由で、反封建、反教会の思想をもっている、近代的人間である。
　実は、私もそういう生活にあこがれてて、そういうふうに生きていけたらいいなと思っています。

（遍歴学生、遍歴学生業者は、大学の起源とされる中世、商業都市に生まれた都市が必要とする知識人を養成する機関、後、イタリヤのボロニヤとかパリとか大学町を形成し、日本の武者修行のように、さらに、高度の知識を求めて遍歴した学生をいうが中には、学生の特権を利用し生涯を過ごす業者（？）も現れた。しかし、彼らこそ、学生の言うように、近代的人間像をつくりだしていく。・・・筆者）

（３）シラバス４～９について
・私が講義の中でもっとも興味をもった内容は「学校令」の所です。「学校令」とは「帝国大学令」「中学校令」「小学校令」「師範学校令」と分けることができます。「帝国大学令」「中学校令」はエリート養成をするいわば金持ちしか行けない学校です。一方「小学校令」や「師範学校令」は貧しい人がいく学校です。私が、「学校令」を選んだ理由は、現在、大学、高校に行きたければ受験をし合格すればその学校に入れるが、昔はどんなに頭が良い人でも貧しければちゃんとした学校にもいけないというところに興味をもったからです。一応僕は中学校を受験し、私立中学にはいりました。進学校だったので毎日朝から夜まで勉強をやらされて、なんで私はこんな学校に入ってしまったのだろうと思っていました。しかしこの講義をうけて昔の人と比べてなんて自分は、幸せだったんだろうと思いました。昔の人が教育をいろいろ改善してくれたおかげで現在の教育になったのだからとても感謝しなければならないと感じました。この講義をうけて、教育についての興味がもて、また機会があれば、教育についてもっと詳しく学んでいきたいとおもいました。

・明治（維新）の教育形態に興味を持ちました。その中でも日本３大教育宣言書のうちの一つである教育勅語の内容やその存在を知りました。先生の話によると、その時の生徒は教育勅語の全文を暗記していたそうですがその内容とともに、今の僕たちが受けてきた教育とは全く違った印象を受け、たった１００年の間の変化について考えさせられ、そして驚きました。多分、僕をふくめて、学生のほとんどは”天皇のために”という意識はもっていないと思います。

・自分がいちばん興味を持ったことは、大正デモクラシーと大正自由教育（の範囲）である。まず第一次世界大戦が終わり大正デモクラシーが引き起こされ、民主主義、労働運動が発展することとなる。そして、大正自由教育運動により、学校教育が変化することとなる。子どもを中心とする授業そしてそのための教科書の普及であり教室の充実である。現在の自分が充実した学校生活ができる背景には、大変な運動があったのだと思わされた。

・教育についての内容がとても興味をもてました。中でも、大正の時期の世界的な教育運動や大正自由教育運動のところで児童中心主義へと大きく変化した点が現在の子ども中心の教育の基礎となっているように思えました。
　今まで、歴史の勉強はなんどもしてきてても、その歴史と教育の歴史をダイレクトに結びつけながらの講義が新しい感覚が持てて興味をもった理由だと思います。

・戦時体制の「皇国民の錬成」
理由は、日本がむかし、３大ファッシズムの中の一つだというところに興味を引かれた。今テレビでやっている、北朝鮮の教育テレビをニュースで見ると教育や情報をコントロールすることで国民をあんな風にできるんだと思った。昔の日本もそれとあまり変わらないことをしていたと思うと不思議な感じがするし昔は日本人もあんな感じだったのかと思う。人は育つ国の教育の影響をしっかりとうけているんだと思わされた。

・講義の最終で出てきた、世界の３大ファッシスト教育のところが、自分にとっておどろきであり、興味をひかれた。世界では、２度とあやまちを犯さぬよう、これらの事について過去の反省をして勉強しているが、しかし私が、小・中学校と義務教育をへてきて、これらの事について、学ぶ機会がなかった。日本も、これらの事について、もっと学び、２度とおこらぬように教育しなければならないと思う。

・国家成立までの教育の歩みで、誰一人教育を受けなかった始源の自然教育から社会の全員の誰一人残らず組織的な教育を受ける段階を経て、一部支配階級のみが権力の維持のために受ける教育という流れ（に興味を持った）。
私は大学へ入り、高校まででは感じなかった学ぶ喜びを感じる事があり現代の教育システムはどのような過程でこうなったのだろうと思ったのが理由です。感想は、教育を受けられるということが今まで思っていたことよりも、もっとありがたいものであるということです。できればもっと前から学ぶ喜びを感じたかったのですが、高校までの基礎があってこそいまの勉強ができるので仕方のないことなのかと思っています。
（最後に、学生の記述のままで、変換を忘れたものではないことをお断りしておく。・・・・・筆者）

４．可能性の追求

学生の記述にそのまま語らせたので、多く説明の必要はないと思う。読んで頂いたように、学生の知識欲は盛んで、ＦＢという形とは違った、生き生きした知的な活動が、それぞれの講義内容とふれ合って、動いているのが知れる。これは、ＦＢでは、方法に力点が置かれ、内容まで触れることができないからではないだろうか。総合教育科目の可能性という点からいえば、彼らは、けっして興味本位なのでなく、難しそうな社会や歴史についての講義を拒否しているのでもなく、それについての考え方の枠組をダイナミックに現状と結びつけて聞きたいと期待している。高校までの教育と違うものを大学に期待しているのである。「学ぶ喜び」（学生の記述）を体験したいのである。彼らの、時代・教育・歴史・平和についての感覚は，曇っていない。総合教育科目の可能性と役割は、彼らに安易に妥協するのでなく、高校時代までに勉強（？）として学ぶことのなかった「人生や恋愛についての哲学（？）」、「自分の国についての客観的な歴史」、「高校までに学んできたこと、勉強してきたことのの意味・意義」、「現代社会の人間の問題」、「自由に生きることとは？」等々が、少なくとも、まえの記述から推測できる、まさに「学ぶ喜び」を実感させてやることにありそうである。

参考文献

・プラトン（久保勉訳）：饗宴,岩波文庫,東京,１９５２
・務台理作:現代のヒューマニズム,岩波新書,１９６１
・小川太郎:集団主義教育の本質,講座集団主義教育１,明治図書,東京、１９６７、所収
・梅根　悟：世界教育史、光文社、東京、１９５５
・文部省（文科省）「高等学校学習指導要領」
平成１１年３月版

（受理　平成15年３月19日）